

唐

船

912.3

力

と一し、たの神向う
光のちみ乃、思

と一し、
是の唐土明る乃、神を

客人と申者、我とて、ふ日本ふと

里外馬とあり、ひ草刈、筆の、藤、唐土

といふもの、同く、う、乃の、あ、た、思

や、我、年、月、日、と、送、る、行、ふ、二、人、の、子、と、の、唐

と、ふ、と、二、人、乃、子、あり、
か、れ、る、事、と、思

時、と、ふ、し、も、思、く、又、も、い、う、あ、く、一、と

と、の、箱、渡、ま、二、人、乃、子、を、た、り、せ、と、光、本

乃、思、と、あ、れ、る、け、身、れ、と、て、い、う、と、人

あ、と、と、う、と、申、乃、子、乃、あ、く、と、申、乃、子

乃、の、あ、く、と、ふ、ふ、ゆ、と、り、の、や、思、う、と、ひ、思

人、傳、と、あ、て、と、わ、我、乃、た、り、と、あ、る、乃、子

乃、乃、あ、く、と、あ、る、乃、子、
い、ふ、乃、思、

中へいふやむかへいふ
中へいふやむかへいふ

又後より國へ大板作るも唐土より牛馬と

銅やむ清もあふりて
中へいふやむかへいふ

唐土より馬と教ら桃梅より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

唐土より牛と
唐土より牛と

事 諸君 幸 勿 誤 也
此 乃 一 種 之 變 化 也
其 變 化 之 理 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理

其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理
其 理 之 變 化 亦 有 其 理

作て 是に思ひもあぬまゝと作らば

うね板との和といひくゝとて ば

あると来久和と免てうするていあの

沖にかりとる和とい 實是に数も

ねとみ海う小強一居る和とい

うういゑと兄弟の者ゝ對面は 解

此新とい對面をみねうも解う作

る思ひもあるとん ち若かぬまゝ

對面は 相兄弟の者といはくゝと

いふとていふとていふとていふとて

ある兄弟の者ゝ 人いゑとて

いゑとていゑとていゑとていゑとて

ある箱 明金せん 表背一列

其價子金も何とていゑとていゑとて

たしと早洗と渡くと 海もあ

むと 取とひら 中と海と又ひ

とりととあもたるととたつとりとも

うかぬと箱渡りうかぬとたつとわ

そとと親のふとあつとまづ人倫はかた

焼ゆの都みぬ乃落涙乃はくもも

みんともあ思 況我とぬとふ明日

ともあぬむれ身の子あは消人い妙ら

何中ふあうと 今ハあつとあふ

角よ 船ととあゆととまらうと義

ありて十金ととふまふとあまんと店

ちあ日のもれふたをたつとあけと

うふとあつとあつとあつとあつと

あつとあつと 能くあつとあつとあ

修一 振くも追風船の神の時風
 一 追手やう人帆のけきく船先
 帆のけきく船先
 かにうてせあるか



下掛謠本者寶永之初上梓以來雖頒行
 於世其誤不少欲改正之不得正本久而
 不測羅明和之災梓乃灰燼今也幸得專
 門之佳本悉加改正再命剞劂庶幾廣之
 萬世云

安永五丙申歲

東都書林

日本橋新右衛門町

戸倉屋喜兵衛

日本橋通吉町

須原屋茂兵衛

